広告特集

新春鼎談

熊本大学×熊本大学医学部附属病院×熊本県医師会

# 明日を担う、熊本の医学

## ～近代医学の先駆地に息づく伝統と、芽吹く新たな力～

熊本の医学が熱い。熊本大学医学部による先進的なプロジェクトの展開など、国内だけでなく、世界がその動向に視線を注ぐ。そもそも熊本は、近代医学の先駆地として知られる。熊本大学医学部の前身・熊本医科大学は1756年設立の藩校を起源とし、明治維新を経た医学校時代には、日本細菌学の父・北里柴三郎を輩出した。また熊本の医学への高い志は、地域医療にも表れる。医療機関と大学及び大学病院との連携が進み、地域医療で確かな実績を築いている。2016年新春に当たり、熊本大学の原田信志学長と熊本大学医学部附属病院の水田博志病院長、そして熊本県医師会の福田稠会長の3氏による鼎談の機会を設け、朝日新聞熊本総局長の堂地志朗が、熊本の医学と医療について現状と展望を聞いた。

熊本大学
原田（はらだ） 信志（しんじ） 学長
熊本大学医学部卒。同大学院医学研究科修了。マサチューセッツ大学医学部病理学教室医学研究員、熊本大学医学部教授、同大学院生命科学研究部長、理事：副学長などを経て、2015年、熊本大学学長に就任。専門は感染防御学。

### 北里柴三郎ら優れた研究者を輩出 ふるさと熊本は西洋医学揺籃の地

**―まず、熊本の医学の系譜と言うか、歴史についてお聞かせ頂けますか。**

**原田**：熊本の医学の系譜と言うと、まず、北里柴三郎の名前が上がります。実は熊本での研究期間は短いのですが、やはり郷土が輩出した医学界の偉人だと思います。

**福田**：オランダ人のマンスフェルトという医師を長崎から招き、明治4年に熊本医学校が開かれました。このとき、マンスフェルトから直接教育を受けた学生の1人が柴三郎です。同期には、後に東大の衛生医学の教授になった緒方正規がいます。どちらも感染症における学界の中心的な存在でした。また、産婦人科では、東大産婦人科の初代教授になった浜田玄達がいます。マンスフェルトは、学生たちが医学を学ぶに当たり、基礎医学や物理、生物など、一般教養を十分身につけることに力を入れたそうです。だから熊本から多くの優秀な医学者が出ているんです。長崎が西洋医学発祥の地なら、熊本は西洋医学揺籃の地と言われます。

**原田**：熊本の医学の系譜は、熊本大学医学部の前身である医学校がつくってきた経緯があります。キーパーソンが山崎正董先生です。いま、私たちが話をしているこの建物は、山崎先生を顕彰した記念館です。山崎先生は熊本医学校に産婦人科の教授として赴任し、後に熊本医科大学の学長を務めました。熊本の医学史に関心があり、「肥後医育史」を著しました。熊本の医療界をまとめ上げた人物でもあります。山崎先生は、福田会長と同じ産婦人科医です。実は熊本の医学界で産婦人科が果たした役割はとても大きい。医療のみならず、文化面を含めてです。福田会長の祖父である福田令寿先生は、教育など多くの分野で功績を残しました。また、感染症の分野でも、著名な研究者が数多く出ています。さらに、その系譜を汲むベンチャー企業が誕生するなど、熊本大学を拠点とする医学は、研究者や医療人を育てるだけでなく、地域の産業にまで貢献しています。

| | |
|---|---|
| 宝暦 | 再春館 宝暦6年9月（1756年） |
| 明治 | （官立）医学校兼病院 明治4年7月（1871年） |
| 明治 | （私立）熊本医学校 明治29年2月（1896年） |
| 明治 | （私立）熊本医学専門学校 明治37年2月（1904年） |
| 大正 | （県立）熊本医学専門学校 大正10年4月（1921年） |
| 大正 | （県立）熊本医科大学 大正11年5月（1922年） |
| 昭和 | （官立）熊本医科大学 昭和4年5月（1929年） |
| 平成 | 熊本大学 昭和24年5月（1949年） |

山崎記念館

◆「スーパーグローバル大学創成支援」事業
日本の高等教育の国際競争力向上を目的に、海外の卓越した大学との連携や大学改革により徹底した国際化を進める大学に対して、重点的に支援を行う事業。

◆「地（知）の拠点整備事業」
全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資するさまざまな人材や情報・技術が集まる地域コミュニティーの中核的存在としての大学の機能強化を図る事業。

◆「研究大学強化促進事業」
世界水準の優れた研究活動を行う大学群を増強し、日本全体の研究力強化を図るため、大学などによる研究マネジメント人材群の確保や集中的な研究環境改革などの研究力強化の取り組みを支援する事業。

### 新事業推進で注目される熊本大学 次代が求める人材育成を目指して

**―熊本大学が進める3つの新しい事業が注目されていますね。**

**原田**：本学では「『くまもと』から世界に輝く研究拠点大学」というキャッチフレーズの下に、第3期中期目標を立てました。この計画で大きな推進力になっているのが3つの事業です。3つに共通しているのは、教育改革です。グローバルな人材を育成するにはどうするか、地域に貢献する人材を育成するにはどのような教育をするかということです。

**―まず「スーパーグローバル大学創成支援」事業について教えてください。**

**原田**：この事業では、世界レベルの研究拠点大学として、徹底した国際化を目指します。医学に関しては、国際レベルの医学教育を実践するべく、カリキュラムの変更を進めています。従来、本学医学部の教育は充実しているという意見はありますが、さらに国際的な医療人を育成するための教育改革です。その一環として、インターンシップで海外の医療現場で研修したり、英語学習のために留学したりします。

**―「地（知）の拠点整備事業」では、国際指向から一転して、地域へとベクトルが向かいますね。**

**原田**：いかに地域に関心ある人材を育てるかということが基本テーマです。本学の事業名は「活力ある地域社会を共に創る火の国人材育成事業」です。本事業では、熊本県を地区分けして、各地区が抱える問題を提議し、問題解決のための教育を実践します。例えば、天草地区は医師不足の問題があり、これを解決するために、現地での医療活動支援に取り組みます。こうした取り組みを通じて、医学部の学生が地域医療に目を向け、その発展を目指してもらうことに、真の狙いがあります。

**―もう1つ「研究大学強化促進事業」について教えてください。**

**原田**：研究促進のために多様なシステムを構築することが本事業の目玉です。その一環として、生命科学国際共同研究拠点という組織をつくりました。医学部、発生医学研究所、エイズ学研究センター、薬学部などから、本学の多くの研究者が参加しています。まさにここを拠点として、若い研究者の海外派遣を支援したり、学内で国際的な研究会を開く支援をしたりします。対象は、基礎的な研究だけでなく、臨床的な研究も含まれます。どんどん活性化させていきたいですね。

熊本大学医学部附属病院
水田（みずた） 博志（ひろし） 病院長
熊本大学医学部卒。同大学院医学研究科修了。同大学院医学薬学研究部教授、同大学附属病院副院長などを経て、2015年、熊本大学医学部附属病院病院長に就任。専門は膝関節外科、スポーツ医学、骨延長、リウマチ性疾患、軟骨再生。

熊本大学大学院医学教育部 柴三郎プログラム

柴三郎プログラムとは……
阿蘇郡小国町出身の北里柴三郎のような、世界で活躍する基礎医学研究医を育成するために設立しました！
高校生の時から医学・生命科学研究に興味を持つ人材を発掘・育成し、学部時代から大学院修了まで継続して研究ができるプログラムです！

来たれ！
高校生で医学・生命科学に
興味のある人！

学部生でも
大学院科目を先取り
履修できます！

柴三郎プログラム学生の1～2年次には、奨学金を給付！

医学・生命科学研究に
興味のある方は
HPをチェックしてね！

Shibasaburo Program
熊本大学大学院医学教育部 柴三郎プログラム事務局
〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1 Tel：096-373-5053 Fax：096-373-5052
〈E-mail〉info@shibasaburo-kumamoto.jp 〈HP〉http://www.shibasaburo-kumamoto.jp/